

世界銀行オープンデータの活用 ～データで見る格差の状況～

国際部 宮下 格

世界銀行の「オープン・データ・イニシアティブ」は、世界各国・地域の約 8,000 に及ぶ開発指標や 1 万件以上の調査研究データを、誰でも無料で閲覧・分析・利用できるプラットフォームです。取り扱う分野は貧困・格差をはじめ、経済（GDP 成長率等）、気候変動、保健、教育、ジェンダーなど多岐にわたります。様々な世界の状況に関するデータから最新の世界情勢を把握する手助けになりますので、今回ご紹介します。

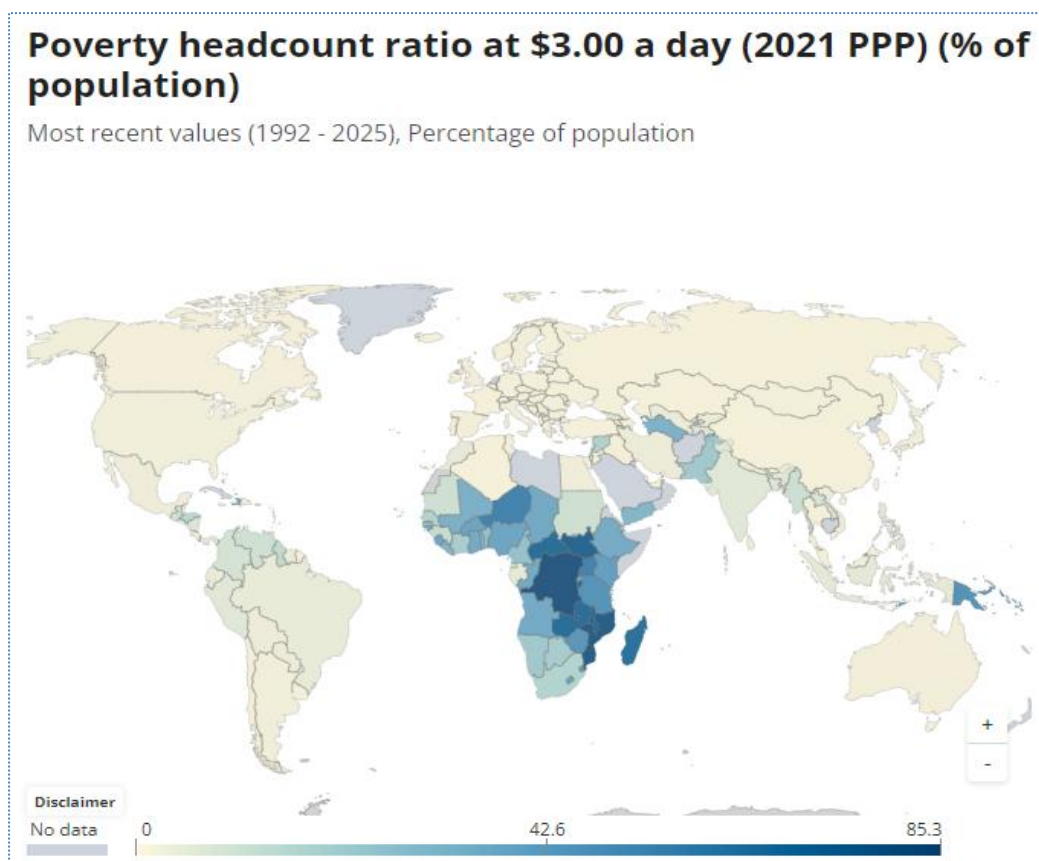
概要と活用例

指標・データの検索と比較: 「世界開発指標（World Development Indicators: WDI）」などを通じ、特定国や地域別、年次別のデータを簡単に検索・比較集計できます。

データの視覚化と分析: サイト上で時系列グラフや地図（マップ）を動的に作成・カスタマイズできるほか、持続可能な開発目標の達成状況をインタラクティブに示す「SDGs アトラス」などの関連ツールも利用できます。

データのダウンロードと二次利用: CSV や Excel 形式でデータを一括ダウンロードできるため、学術研究、ビジネスのリサーチ、政策立案の基礎資料として幅広く活用できます。

この中の一例を紹介すると、貧困率なども地図上や時系列で視覚的に確認することができます。



格差は本当に広がっているのか

以前話題になった書籍「FACTFULNESS」でも同様に紹介がありましたが、マスコミの報道などで「世界中で格差が広がり続けている」という印象を持つ人は少なくないながら、世界銀行等の長期データが示す現実とは、より多角的な側面を持っています。

絶対的貧困の劇的な削減:

1990 年には世界人口の約 36% (約 19 億人) が極度の貧困状態にありました。しかし、中国やインドをはじめとする新興国・途上国の持続的な経済成長により、2010 年代末にはその割合が 10%未満 (約 7 億人) へと半減以上しました。人類史上、これほど短期間で多くの人々が絶対的貧困から脱出した時代はありません。

■1980～2024 年にかけて、貧困率は 40%～10%未満へ低減 出所：世界銀行 オープンデータ



「全地球規模の格差（グローバル・ジニ係数）」の縮小:

世界全体を一国とみなして計算した「世界のジニ係数」は、過去 30～40 年間で明らかに低下 (改善) しています。かつて先進国と途上国の間に存在した圧倒的な所得格差が、アジアを中心とする途上国の急成長によって縮小したためです。

「国内格差」と「世界格差」の二面性:

一方で、米国や一部の先進国、あるいは特定の途上国の内部では、上位層への富の集中による「国内格差 (Within-country Inequality)」の拡大が観察されています。しかし、「世界の国と国の間の格差 (Between-country Inequality)」が大きく縮小した結果、地球全体としての総合的な不平等は縮小傾向にあります。

明るい将来に向かっていく根拠と課題

データに基づく、世界が単純に「悪化している」という見方は正確ではありません。 明るい将来を示唆する根拠が存在します。

人間開発指標（生活水準）の世界的向上: 貧困率の低下と並行して、世界平均での乳幼児死亡率の大幅低下、平均寿命の延伸、初等・中等教育の就学率向上、識字率の増加など、人々の基本的な生活品質は長期的に着実に改善しています。

テクノロジーと金融の包摂: モバイル通信やデジタル金融インフラの普及により、かつて金融・医療・教育サービスから取り残されていた地域でも、低いコストで機会にアクセスできるようになっています。

紛争やパンデミック、気候変動といった短期的な逆風や課題は依然として存在するものの、数十年という超長期スパンのデータは、人類が全体としてより豊かで平準化された世界へ確実に向かっていることを裏付けています。(2026 年 8 月)

参照 URL

世界銀行 オープンデータ : <https://data.worldbank.org/>